

1~3面 歴史の学びに新しい視点を

4~5面 「国連女性の地位委員会 (CSW)」レポート

6面 大阪YWCA「ガールズSTT」

7面 私は私、自由になろう!

The Young Women's Christian Association

YWCA

(第32総会期主題聖句)
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

(日本YWCAの使命 (ミッション))
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

(日本YWCAのビジョン)
地域で女性達が主体的に活動することを通して、
以下の社会をめざします。
(1) 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
(2) 女性と子どもの尊厳を守る社会
(3) 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
(4) 多世代・多文化で多様な背景を
持つ人びとを尊重する社会

6

JUNE 2017

No.738

www.ywca.or.jp

2016年春、一冊の教科書が学校現場に登場した。中学生を対象にした『ともに学ぶ人間の歴史』(学び舎)。子どもたちの中から生まれる「問い」から出発し、教室での対話を通して歴史の学びを深めることを願い、現場の教師たちが主体となって編んだ。一つの正解を暗記する受動的な学びではなく、主体的に疑問を持ち、自ら調べ、仲間と対話することを通して学ぶ「アクティブ・ラーニング」が、これからの教育現場のキーワードになっている今、注目されている教科書だ。中学生だけでなく、この教科書で歴史を学び直す市民グループも増えているという。「人間の歴史」を多様な人々の視点から多角的にとらえた教科書の魅力と、歴史の学びの新しい形を紹介したい。

大人も読みたい

教科書に注目 人間の歴史を ともに学ぼう

Active Learning

エンパワーするNGO



2016年度 寄付報告

2016年4月1日~2017年3月31日

活動へのご賛同、ありがとうございます。

- ピースメーカーズ募金 1,015,321円
(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)
- 災害時支援募金 6,845,883円
(国内外の災害被災者支援。パレスチナ支援、変革の力基金、熊本/台湾南部地震被災者支援含む)
- 東日本大震災被災者支援募金 6,317,733円
(ビーチリボンキャンペーン含む)
- オリーブの木キャンペーン募金 729,000円
- 賛助費 1,284,000円
- その他 23,650円

2017年度もよろしくお願いたします

※当法人へのご寄付は、税額控除の対象となります。
※メールまたは振替用紙通信欄で次の情報をお知らせください。領収書を発行します。
①振込日 ②金額 ③お名前 ④ご住所 ⑤寄付項目
⑥お名前のアルファベット
(オリーブの木キャンペーンへのご寄付のみ)
※ご希望の寄付項目を必ずご指定ください。
※年間3,000円以上のご寄付で、機関紙をお送りいたします。

銀行への振込
振込先 三井住友銀行 飯田橋支店 普通預金 1198743
(口座名義) 公益財団法人日本YWCA
コウエキザイダンホウジンニホンワイダブリューシーエー

郵便振替 00170-7-23723 (加入者名) 公益財団法人日本YWCA
他行からの振込 ゆうちょ銀行 ○一九支店 (ゼロイチキュー)
当座預金 23723
(口座名義) 公益財団法人日本YWCA
サイ) ニホンワイダブリューシーエー

日本YWCA 2017 参加者大募集

HIROSHIMAから考える 平和の根っこ

日本全国からの幅広い世代の人たちや海外からの参加者と出会い、過去の事実を学び、今を見つめ、未来を考えませんか？あなたも一緒に、「ひろしま」で。

日時：8月9日(水)~11日(金)
オプションプログラム参加の場合12日(土)まで

会場：広島市文化交流会館

対象/定員：中学校1年生相当年齢(2004年4月1日以前の生まれ)以上でこのプログラムに関心のある方
ならどなたでも! 80名

参加費：中学・高校生 22,000円、
オプション参加 32,000円
大学生・大学院生 25,000円、
オプション参加 36,000円
一般 30,000円、オプション参加4万円
※留学生対象の参加費補助制度があります

詳細は以下までお問い合わせください、HP
(www.ywca.or.jp) をご覧ください。

問い合わせ・申し込み

公益財団法人 日本YWCA

E mail: office-japan@ywca.or.jp

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台1-8-11東京YWCA会館302号室

Tel : 03-3292-6121 ・ Fax : 03-3292-6122

ご協力ありがとうございます

- 東日本大震災被災者支援募金
齋藤厚 竹内朋子 石川大地
倉橋孝 島田麻美 清弘和海
稲垣守 廣田光司 岡崎公子
渡邊洋 渡邊明子 粕谷千穂
齋藤薫 齋藤和子 杉山道子
橋本徹 橋本春子 山本羽衣
河野俊彦 河野園子 水越紀子
大澤淳平 大澤淳子 松野佳子
齋藤忠雄 齋藤裕子 中野和明
高木映一 高木啓子 福島和子
岩本明義 岩本啓子 木戸真千子
白石啓子 本澤利明 富沢寿美子
谷口勝子 小暮芳子 粕谷多賀子
久利勝子 飯塚光枝 くらさあき
幸田容子 矢崎容子 阿久戸光晴
市川公久 竹内美貴 星野りえ子
山田克己 山田友子 藤井野百合
山田功一 矢崎健一 井川三重子
木澤洋子 百井幸子 矢崎佐知子
北浜敏明 田中常子 下条知加子
西田悦子 河内信男 佐々木園夫
藤井初子 設楽順子 高田八重子
御子柴高視 御子柴恵子
日比八重子 神門佐千子
普通士学 宗教委員会
東洋英和女学院 中部高等部 母の会
東洋英和女学院大学 学生支援課
宗教委員会
日本聖公会 東京教区 葛飾次十字教会
日本聖公会 宮古聖ヤコブ教会
日本基督教団 滝野川教会
日本基督教団 聖ヶ丘教会
日本キリスト教団 麹町教会
日本キリスト教団 麹町教会
日本キリスト教団 麹町教会
日本キリスト教団 麹町教会
公益財団法人 名古屋YWCA
公益財団法人 広島YWCA
匿名

- 日本YWCA 指導者養成寄付金
福島百枝 大里喜美子
辻加代 中山美津江
匿名
- 2017年2月16日~4月15日現在

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03-3292-6121 Fax.03-3292-6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | お名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp 無断での複製・転用・転載はご遠慮ください。



原水爆禁止運動の展開を伝えるページでは、1954年の第五福竜丸事件の詳細のほか、同事件の原因とするパニック映画「ゴジラ」にも言及。翌55年に白血病で亡くなった広島市の被爆者、佐々木貞子さんの願いを紹介する一方で、原子力平和利用の推進、原子力発電所の発展と家庭の電化に触れるなど、高度経済成長期の原子力をめぐるさまざまな側面を照らしている。

市井の人々に光をあてた「人間の歴史」教科書

A4サイズの教科書は、「原始・古代」から「現代」まで6部10章で構成されている。各章の扉ページには、北極を中心とした世界地図と同時代の各地域・各国の様子や人々の姿が掲載され、地球規模で時代を俯瞰できる。例えば第8章「帝国主義の時代」の扉ページでは、世界大戦が進むなかで変った女性たちの姿を、女性解放の萌芽と衣装の変遷を絡めて紹介。中国の纏足、欧米のコルセットなど、



視点をえれば 新たな歴史が見えてくる

この教科書に携った執筆陣の一人、山田麗子さんは公立中学校の元教員。女性の視点をはじめ、さまざまな立場からの視点で歴史を見ることの意義や魅力を聞いた。



インタビュー

また、女性に光を当てることで、歴史の評価が変わることがあります。フランス革命は人権の歴史上、先進的で輝かしい出来事です。しかし女性の参政権、政治集会への参加は禁じられたまま。むしろ「人権宣言」の権利は奪われました。その結果、フランスに女性参政権が実現するのは、他のヨーロッパ諸国よりも30年ほど遅れました。歴史の輝かしさの裏で、強権によって女性の権利が奪われる。同じような流れは、自由民権運動期の日本でもありました。高知県の一部の町村で実現した女性の参政権や政治集会への参加は、禁じられていったのです。

さまざまな視点で問い直す

歴史のある局面で、その出来事があるような意味を持つのかは、置かれた立場によって異なります。さまざまな立場の人々の切実な願いを重ね合わせることで、見えてくるものがあります。

大正デモクラシー、民主主義の高まりは、参政権を得られなかった女性や、植民地だった台湾や朝鮮、人間の尊厳を認められていなかったハンセン病の人々にとつてどのように映ったのでしょうか。

第五福竜丸事件を受けて、原水爆禁止運動が展開され、その一方で、高度経済成長期に原子力エネルギーが「核の平和利用」とされてきたのも事実です。教科書で扱っている最後の出来事は、2011年3月11日の東日本大震災です。

窮屈に締め付けられていた自らを解放した女性、社会進出や政治参加を進める女性の姿が一目でわかる。執筆を担当したのは現場の教師たち。そこに歴史学者が加わり助言・校閲を行った。

「東アジアと世界」「戦争の現実」を重視しているのも特徴的だ。第二次世界大戦の時代を記述したページの数は、某社の中学歴史教科書が17ページであるのに対して、約2倍の33ページをあてている。第一次世界大戦後の好景気に沸くアメリカ、日本の大衆文化の隆盛を描き、一

女性の視点で見直そう

女性の視点で歴史を見ると、歴史の進歩を別の側面から見ることになります。

正解は一つではない

直立歩行から始まった人間の歩みが、現在の私たちにどのようにつながっているのか。それを考えていくと、社会や世界の見方が深まります。

歴史の見方について正解は一つではありません。さまざまな疑問や意見を言い合う、自分の足で調べる、他の地域や国の人と出会う、対話をする。豊かな体験を通して、多様な視点から生きた歴史を感じてほしい。なぜこういふことが起きたのか、今の社会がどうしてこうなった

転して不景気から世界恐慌に至る経済の混乱、戦争へとなだれ込む欧米とアジアの国々の状況など、第二次世界大戦の開戦まで12ページを費やして活写する。開戦後は、日本、中国や朝鮮、東南アジアの国々、ヨーロッパ、アメリカ、沖縄など、異なる立場の人々を襲った惨禍に向き合うことになる。どの時代にも、そこに生きて、歴史を支えた多彩な人々が登場するのも大きな特徴だ。時の為政者だけでなく、市井の人々、とくに女性や子どもたち、世界の各地の少数・先住民族がその時代を生き抜

たとえば原始、木から下り直立歩行を始めた猿人は、両手が自由に使えるようになり、道具を作って使うようになりまし。これは生産面での輝かしい進歩ですが、しかし、女性にとつては、直立したこと

第8章「帝国主義の時代」の扉ページ。世界大戦のなかで、世界の女性たちが変わり始めた時代。社会進出、参政権運動、欧米化……。意識や生活の変化に伴い服装が変化した様子をピフォー/アフターの画像を並べて一覧にしている。和装の女性と洋服姿のモダンガール。つま先まで隠れるドレスと颯爽とした膝丈スカート。衣装の変化だけでなく、解放された女性の生き生きとした表情も伺える。

のか、未来をどう形作るのかという問いを重ねて、教科書に限らず知の集積である歴史の本を手に取り、学び続けてほしいですね。

聞き手・文責 編集部

増補 学び舎 中学歴史教科書 『ともに学ぶ 人間の歴史』

発行/学び舎 定価/2400円+税 今回紹介した検定教科書の編集方針や特徴、編集者の思い、メイキングストーリーなどを詳しく紹介しているガイドブックが発売中。付属品として教科書『ともに学ぶ人間の歴史』が同包されている。全国の書店、amazonなどインターネットからも購入できる。受注代行: 太郎次郎社エディタス Tel.03-3815-0605

教科書検定とは? 合格しなければ「教科書」になれない

1947年に施行された学校教育基本法によって、小中高校、特別支援学校などでは、原則として文部科学大臣の検定に合格した教科書(検定教科書)を使用しなければならない。教科書検定の流れは、教科書会社が申請したものを、文科省が教育基本法や学習指導要領に照らして審査をし、合格、不合格の判定保留、不合格の3つの判断を示す。判定保留や不合格と判断されたものについては、70日の間に検定意見をもとに修正、再申請できる。2018年度から小学校で教科化される「道徳」の教科書検定では、ある教科書が、「学習

指導要領に示す内容(伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度を学ぶ)に照らし扱いが不適切」と検定意見がついたことを受けて、「パン屋」を「お菓子屋」に修正、店頭にはお菓子が並ぶイラストに差し替えられた。教科書の採択は、学校のある都道府県や市町村の教育委員会(国立・私立学校においては学校長)が判断する。学び舎の『ともに学ぶ人間の歴史』は、2014年に初申請、修正を経て翌年の春に合格。2016年度から、全国38の国立・私立学校で使われている。

く姿に光が当てられている。まさしく「人間の歴史」である。「人間の歴史」の半分を支える女性が、学びと創造、闘いと運動などの主体的な働き手として記されている。18世紀のアメリカで「奴隷制度は州憲法違反」と訴えたエリザベス・フリーマンや、明治時代の高知で女性の参政権を訴えた楠瀬喜多など、平和と人権を求めて強権に抗した女性たちが登場する。ほかに、歴史の中で重要な役割を果たしながらも光が当てられてこなかった女性たちが、生き生きと描かれている。で産道が曲がり難産になりました。母親が命がけで未熟な子どもを出産するのは、動物の中で人間だけです。赤ちゃんは自力で育つことができません。弱い子どもをみんなで守り育てる、支えあって生きるといふ人間の集団形成は、この時代に遡るのではないかと気づきます。縄文時代は男性が狩猟をして食糧を得るイメージがあります。しかし最近の研究では、内陸の人々の主な食糧は木の実でした。青森の三内丸山遺跡の調査から、クリの木を栽培していたことが確認されています。栽培して採取する、生産の中心に女性もいたのです。それが次の農耕の時代へと続きます。女性の視点は、庶民、生活者の視点でもあります。多様な人々が生活の中の課題に立ち向かう姿、命を脅かす戦争のような局面に生きる姿が浮かび上がります。

初めてのCSW

出会いがくれた感動と情熱を
多くの人々に伝えていきたい

楊 一珊

世界YWCAや他の国のYWCAメンバーと会って交流できると聞いて、ぜひこのチャンスを生かして、さまざまな国のYWCAが実施するプログラムや活動について知りたいと思って応募した。

私は大学でソーシャルワークを専攻している。京都YWCAにいた頃は女性の力とすばらしさをしみじみと感じたことがある。このCSWでは、世界各国の若者が集まって母国の女性のために闘っている姿を見てワクワクしてきた。この感動



と情熱を忘れずに、より多くの人々に伝えたいと思うようになった。例えばCSWでは、こんな人たちがいた。自分の家族が冤罪にあったという経験からYWCAの公平と平等に

関する活動に参加した人。男女差別を解消するために男装をして男性とスポーツをした少女がいた。彼女は「もし私を倒したいならば、君の性別ではなく能力を使いなさい」と宣言したという。女性の権利のために活動している若い男性もいた。彼は、「私は女性の代表者ではなく、女性と一緒に闘うのだ」と言った。国連の会場に座って代表者のスピーチを聞いた私たちは、実に幸運だった。平等は決して一人だけの課題ではない、全人類に関わる話。まずは子どもに男女

平等の意識を教えることが基本的な一歩である。会期中、世界YWCAは国連近くの建物内に「セーフスペース」という安心して集える居場所を設置した。ここでは若い女性が気軽に訪れ、仲間と出会い、安心して話をしたり、独自の企画を発表してリーダーシップを発揮したりできる。韓国YWCAは「セーフスペース」内で、現在も戦争状態にある朝鮮半島に住む若い女性たちの状況と取り組みを紹介するイベントを開催した。また、韓国YWCAの呼びかけで、アジア地域のYWCAのメンバーが集まり、ミャンマー、ネパール、香港からの参加者とともに交流のときを持った。ここで作ったつながりを深めて、YWCA間の共同イベントを行うなどのアイデアもあり、みんなの期待は高まっている。中日韓三国が良好な関係を構築するには、民間の力が必要不可欠だ。民間組織としてYWCAがするべきことは多い。



韓国YWCAのイベントにて

ユースフォーラムに参加

若いチカラと可能性を発揮して
ムーブメントを起こす場を作りたい

栗田明日香



UNWイメン(ジェンダー平等や女性の課題に取り組む国連機関)が主催する「ユースフォーラム」には、各国から1000人以上の若者たちが参加した。女性、男性、LGBTQ、国連要職者、草の根の活動家などが登壇し、先進国、途上国、紛争地域など世界の様々な視点から、ジェンダー平等や労働における女性の権利・地位向上、教育の重要性など

を議論した。驚いたのは、世界YWCAの存在感の大きさ。冒頭で、マラヤ・ハーバー総幹事がパネラーの一人として登壇し、若い女性のエンパワメントの意味合いについて語ったほか、YWCAから参加した複数のユースが司会者や発言者として登壇した。登壇者の中にはYWCAとの出会いがきっかけで社会活動家になった方も数人いた。ここでは女性から見た女性の権利だけでなく、LGBTQや男性視点のジェンダー平等、身体に障がいを持つ女性が語る教育の必要性など、従来の枠を超えてより包括的に女性の権利、ジェンダー平

等が語られた。残念ながら本会議の決議案にはこれらの視点は取り入れられなかったが、若者の鋭い感性や柔軟な考え方は、ジェンダー平等をより包括的なものとするために不可欠なものだと共有できた。自分たちの力を信じて、世界が良くなることを真剣に考えている若者がたくさんいた。それを実行し発信する力も備えている。日本にいると考えにくいのが、国連という世界の舞台で小学生ほどの子どもたちも自分の意見を表明していた。そんな若者たちを見て、「私たち若者の可能性のなんと大きいこと」とワクワクさせられた。若者が力を発揮し、新たなムーブメントを起こせるような場を、日本のYWCAにも作りたい。



スコットランドYWCAと夕食会

パラレルイベントを開催

あらゆる壁を超えた一体感こそ
草の根活動の一番の魅力

奥山りつ

私たちユース3人は、過去に「ひろしまを考える旅」に参加した経験があった。そこでパラレルイベントで行うプログラムの立案にあたって、「ひろしまを考える旅」と国連が掲げる「平和と公正をすべての人に」を結びつけ、若い女性(世代)がどのように平和を創り、維持し、促進していくのかを考えるワークショップを企画した。日本に疎い人々も親しめるように広島

の位置など基本情報や原爆の被害など噛み砕いた説明を心がけ、また太平洋戦争における日本軍の加害側面にも触れるように気を付けて組み立てた。具体的には、太平洋戦争と原爆の概要、「ひろしまを考

える旅」の紹介、平和記念公園バーチャルツアー、フィールドワーク紹介、グループワークを90分間にぎゅりと詰め込んだ。「ひろしまを考える旅」のフィールドワークを再現するような、グループ別にそれぞれ言葉で語り合う時間を確保することも重要視した。多様な意見を持つ参加者と意見を交わした。当日はこちらの不安とは裏腹に、参加者は私たちの拙い英語に例外なく一生懸命に耳を傾けてくださったので、温かい雰囲気を進めることができました。また、数日前に知り合ったばかりの世界YWCAメンバーが応援に駆けつけてくださり、YWCAのチームワークの良さを実感した。私自身はこのような草の根の活動に果たして意味があるのだろうかという疑問



パラレルイベントのグループワーク



広島や原爆について説明

ユースがレポート

国連女性の地位委員会 (CSW) @NY

刺激的な出会いに、
ワクワクが止まらない!



3月13日~24日、ニューヨークの国連本部で「国連女性の地位委員会 (CSW)」が開催された。世界各地から130人以上の参加者を派遣した世界YWCAは、総幹事のマラヤ・ハーバーさん率いる代表団のもと、国連で若い女性の声を反映することを主眼にした多くの取り組みを行った。日本YWCAが派遣した3名のユースは、会議や各種イベントに積極的に参加して「世界」を体験。15日には、3名による企画・実施のもと、NGO主体のパラレルイベントを日本YWCAとして初めて開催した。



Commision on
the Status of Women

国連女性の地位委員会

毎年2月~3月に国連本部で開催される国際会議。加盟45カ国の政府代表が、ジェンダー平等の達成と女性の地位向上のための指針と政策について協議をする。本会議のほか、ワークショップなど多数のイベントが開かれる。世界YWCAは1946年のCSW設立に尽力。国際経済社会理事会の諮問NGOとして参加する資格を有している。



私は私

自由になるっ！

日本の若い女性に伝えたい
ジェンダーステレオタイプから

アデレードYWCAで若い女性のリーダーシップを学んだ
藤原聖帆さんが一年の学びを終えて帰国。

日本に帰って感じたことを若い感性で素直に書いていただいた。
日本の社会で若者や女性に求められることに
違和感を覚える人は少なくないだろう。

日本の社会と私の葛藤

「私は私、自由に生きる。」
これは、私が最近になって決断できたことです。
例えば「気が利く」ことは、日本社会をスマートに生きる上で必須とされます。社交の場では、「若者」、「女性」、「年下」という属性によって、大皿料理が運ばれたら率先して全員に取り分ける、お酒のグラスが空いていたら注ぎ足すといった行為が、暗黙のうちに求められます。私は、この料理は各人が自由に取る方が良くはないか、などと考えてしまうあまり、瞬時に気を利かせることが苦手です。「私は私」を貫くか、日本社会で生きる以上は「気が利く若者」を演じるべきか、そんな葛藤を常々抱えていました。
2016年の一年間、アデレードYWCAで若い女性のリーダーシップを学ぶ機会を得ることができました。オーストラリアでは、気が利くことは個人の能力、強みにすぎず、気が利かなくてもいい。手伝いが必要なら自分から求めます。自分と相手の強みは違って当たり前。

「私は私、あなたはあなた」だから、一つのことができなくても自分も周りも気にしません。そんな国に一年もいれば、私も自分の強みに気がついて、強みを大切にしようと思えるだろう…などと考えていました。しかし日本社会で20年生きてきた影響は大きく、生き方を心の底から変えるのは、そう簡単にはいきませんでした。

私とあなたは違うけれどお互いに尊重しよう

今年の3月、1年ぶりに帰国しました。何だか私の価値観と日本社会にギャップがあるのを感じました。「そんなこと誰が決めたの?」、「誰を、何を気にしているの?」批判的な気持ちになって2週間ほど悶々としていました。そんなある日、「私が私」であることを受け止めている自分に気がつきました。なぜそう感じたのか、いま思えば私の中にあった「若者や女性は気が利くべき」に代表されるステレオタイプな価値観が、アデレードで過ごすうちに取り除かれていったのだと思います。そして新たに、アデレード

で出会った「私とあなたは違う、けれどお互いに尊重しよう」という価値観が、自分の中に根付いていたのでしょう。帰国して、「私とあなたは違う、けれど似るように努力しよう」という日本の価値観に再会したとき、批判的に問いながら「私は私」であることを確立できたのだと思います。

「女子力」と「ガールズパワー」

日本社会に生きる若い私たちの価値観に大きく影響しているのがジェンダーステレオタイプです。例えば「女子力」は「ガールズパワー」として英語圏でも使われている言葉です。日本では、料理や掃除が得意、よく気が利く、いつもスカート、ハンカチとティッシュを持っているなど、古典的な「女らしさ」を意味します。「ガールズパワー」は真逆です。まさに「古典的な女らしさに縛られるのはやめて自分らしく生きよう」という意味を持つのです。

日本の「女子力」や「女性らしさ」という言葉に私はとても違和感を覚えます。「あるべき女性像」の定着は「そうでなければ女性として価値がない」ことを暗示します。

女性が男性に、政治の話や男女平等の問題を語ると「かわいげがない」「生意気だ」などと否定的に受け取られることがあります。一方、男性が流行のカフェに詳しいと「女子力が高い男子」と言われることがあります。「ジェンダーステレオタイプ」は、女性だけの問題ではなく、社会の価値観の問題であり、すべてのジェンダーの問題でもあります。もしあなたが、「女子力」という言葉に違和感や息苦しさを覚えていたら、批判的な思考をもってステレオタイプから脱却して、「私」を開放してみませんか。

東京YWCA 藤原聖帆



大阪YWCAの就労支援「ガールズSST」 ソーシャルスキルを身につけて 社会への1歩を踏み出した

大阪YWCAは創立100周年を来年に控えて、YWCAの原点である若い女性、「ガールズ」の事業が次々と始まった。その一つが、障がいのある女子生徒の就労支援事業「ガールズSST」。社会生活に必要な技術トレーニングと体験学習を通して、社会的な自立を支援している。



お客さん役を前にして緊張しやすいシーンでも笑顔で配膳

就労機会がより少ない 知的障がいをもつ若い女性

大阪YWCAは、知的障がいをもつ若い女性を支援する事業「グループパレット」を35年にわたって展開しています。1981年の創設当時、「養護学校（現在の特別支援学校）」に通う女子生徒は、男子生徒に比べて就労機会が少なく、卒業後は家庭にこもりがちでした。そうした女子生徒のためのプログラム「生活学校」として始まり、のちに当事者による自己決定を充実させた「グループパレット」に発展しました。この間、障がい者を取り巻く社会環境や制度も変化し、特別支援教育拡充や障害者自立支援法などにより、障がいの程度や個性に応じた就労支援や生活支援が行われるようになりました。近年は発達障がいも周知されてきました。

こうした背景から2016年夏、大阪YWCAでは、特別支援学校等に在籍す

る女子生徒を対象にした、「ガールズSST合宿」を初開催しました。

社会的自立を支える ソーシャル・スキル・トレーニング

SSTとは「ソーシャル・スキル・トレーニング」の略で、社会生活に必要な技術を獲得する訓練をさします。プログラム目的は、就労をめざす女子生徒が、①コミュニケーション②金銭管理③スマホのトラブル④性の問題⑤ストレスマネジメント⑥薬のこと⑦就労準備（模擬面接や就労実習）などを体験学習してもらい社会的自立を支援することです。2日間のデイプログラムと一泊二日の合宿によるのべ4日間の訓練に、9人（定員10人）の女子生徒が参加しました。

デイプログラムの導入部分では、保護者とメンバーが同席して、パレット在籍の先輩と保護者から学校卒業後の就労・生活体験談を聴きました。さらに保護者にむけては、「障がいがある子どもの幸



コソの要るホテル独特のベッドメイクを学んだ

せな自立のために、保護者ができること」の講義と質疑応答がありました。参加メンバーは別室で、お互いを知るコミュニケーション・ゲーム、自分のストレス状態を知って適切な対処をするマネジメントなどを学びました。合宿では、お小遣いや貯金の管理、給与で生活すること、スマホをめぐる消費生活トラブルなどについて、日々の実情を振り返りつつ考えました。

合宿の夜は、恋人関係や性について真正面から問題提起し、それぞれの知識や体験を共有して、大変盛り上がり、笑いこぼれました。就業関連では、働く人の権利や面接実習、さらにはホテルのベッドメイキングや食堂の配膳などマンツーマンでの就業を体験して学びました。みんな緊張しつつも、「とてもためになった」と口々に感想を語っていました。

合宿会場となった国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」の就労支援室からも多大な協力をいただきました。その後にはフォローアップも実施。すべてのプログラムにおいて、彼女たちに「伝わる言葉」と「理解しやすい方法」を用いることを心がけました。

保護者や学校からの 必要性を再確認

今回の開催により「SST」が保護者や学校関係者から必要とされていることがわかりました。特に近年は、保護者は「親の会」などにあまり加入せず、リアルな情報やつながりが限られているので「こうした機会は大変有意義だ」という声が寄せられています。2017年度はWAM（独立行政法人福祉医療機構）から助成金が支給されることが決定。今回の内容に、ボランティア養成講座やパーソナルサポート的なケース会議事業などを加えて、より充実した内容で実施していきます。

大阪YWCA 金巻ゆり